

人がつくった橋・鉄道・川：  
江戸時代に開削された神田川に広がる水と緑の景観軸



撮影：2012年9月（東京都・文京区湯島）

◆近代化の中で新しい景観をつくる

お茶の水橋から望む神田川と聖橋の風景は100年前にはなかった近代化象徴の景観です。東京の地と低地の高低差は神田川、丸の内線、中央線、総武線、聖橋と5重の立体構造を作り出しました。平成21年には「神田川水景色」として文京区の都市景観賞を受賞しています。

国土文化研究所 特任研究員 岡村幸二（JRRN会員）